

編集後記

まずは編集子の都合で本誌の発行が遅くなったことをお詫び申し上げます。

さて、日本の代表的な作家で藤枝市在住の小川国夫氏が、去る 4 月 8 日、80 歳で亡くなりました。静岡市に住んで度々氏に会われた石井洋子氏（本学会会員）が論文「小川国夫とフォークナー」を寄稿され、ご自身撮影のカラー写真一葉を提供された。この世の自然を描くことが深い真理に通ずるかのごとき、志賀直哉を思わせる文体で、高潔なお人柄を感じさせた。5 月 10 日の『能：リア王』再演で、講演の途中、作者の上田会長がふと小川氏の死に触れ、「生は思いのままにならないが、死をデザインすることはできる」と小川氏の言葉を紹介され、「リア王を超えられたのでは」と言われたのが印象的であった。（本号収録、資料「『能・リア王』再演・記録」参照）。

本号にはまた、本学会参与で前日本大学通信教育部長の経済学者、加藤義喜教授にご寄稿いただいた。名著『グローバル化の光と影』（文真堂、2001）の編著者である。今にして思えば、9.11 後の暗い世界を予言していたとも言える。本論文はその続編である。

また、今度新たに、東工大名誉教授でロボット博士の梅谷陽二教授、英文学者の遠藤光教授、ボストンの演劇実験劇場ディレクターの William Thrasher 氏が名誉会員になられた。スラッシャー氏は三島由紀夫『近代能楽集』はじめ日本演劇を度々ボストンの People's Theatre で上演され、日本通であるという。お三方から忌憚のないご意見をいただけることを期待する。

6 月 14 日に起きた岩手・宮城内陸地震は、改めてこの世が、人間のみが支配する世の中ではないことを教えてくれた。我々は地球の自然環境と共に在る。国際融合文化学会は、世界の全ての文化の調和と融合を目指しているが、自然環境との調和と融合もまた、今後の人類全体のテーマではなかるうか。被災に会われた方々が一日も早く安心できる生活を回復されることを祈らずにはいられない。

（編集子）

『融合文化研究』第 11 号

<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/>

発行所 192-0906 東京都八王子市北野町 560-11-302 菊地方

国際融合文化学会（ISHCC）事務局

発行人 上田 邦義

発行日 2008（平成 20）年 6 月 30 日

印刷所 合同印刷株式会社

Published by: International Society for Harmony & Combination of Cultures (ISHCC)

c/o Kikuchi, 302, 560-11, Kitano-machi, Hachioji-shi, Tokyo 192-0906, JAPAN

e-mail: ueda@gssc.nihon-u.ac.jp Tel: 0557-82-1411(Ueda)
